

2025年度 公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属永寿総合病院 (病床数 400) 【1年次】

受入人数	【1年次】1名		研修手当				勤務時間	休暇				当直 /月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与		時間 外	休日		有給		夏季	年末 年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤・非常勤	330,000		無		有(当院規定による)	有(当院規定による)	8:30~17:00	10		有(有休利用)	有	3回/月程度	無(本人名義で賃貸の場合、住宅手当半額補助:月額50,000円上限)	社会保険・厚生年金・雇用保険・労働保険等

○ 研修診療科(必修科目)について

科目	研修内容(手技・症例数・指導医数等)
内科	呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓・内分泌代謝内科、脳神経内科、血液内科の病棟を各1ヶ月づつローテートします。CVカテーテル挿入、腰椎穿刺、骨髄穿刺等各種の必要な手技を習得することができます。病棟では5~10名程度の患者を担当します。内科の各診療科の指導医は計21名(病院全体では53名)と充実しております。当院では総合内科があり総合診療科専門医が在籍し、教育体制が充実しております。また初期研修医の直接の指導に関与する内科専修医/専攻医(卒後3~5年目)が5名(含出向者)おります。内科研修では毎朝内科全体での定例モーニングカンファレンスがあり、前日の当直入院の症例等を中心に電子カルテ、大画面でのプロジェクターを利用した検討が行われ、症例の共有や経験ができます。内科各診療科でも毎週回診、病棟カンファレンスや勉強会が行われ、週1回の内科グランド・カンファレンス、定期開催のCPC、地元医師会との合同症例検討会等が行われます。内科学会や同地方会、各種専門領域における学会発表も盛んに行われております。充実したオリエンテーションの他に、コア・レクチャー、感染管理や医療安全教育等の研修が行われます。
救急科	当院は台東区の基幹病院として多くの症例を受け入れています。脳卒中に対してはSCUネットワークに入っており、rt-PA治療のみならず、血管内治療にも対応しております。循環器疾患に対しても、ACSに対するPCI治療も可能です。救急外来で指導医のもとで研修が行われますが、複数の研修医で配属となります。救急専門医の直接の指導を受けることができます。内科研修ともリンクして行います。内科専修医は5名在籍しており、若手医師による指導も受けられます。2次救急の病院ですが年間救急車は、約3,500台であり、多くの症例を経験できます。救急外来の全面的リニューアルを平成23年に行いました。
外科	基幹型コースでは一般消化器外科を2カ月、脳神経外科を1カ月間研修していただきます。一般消化器外科では、常勤医5名で週に概ね10例程度の手術を行っており、頻度の高い大腸癌・胃癌、胆石症などの疾患に対してはほとんどの症例を腹腔鏡手術を取り入れています。腹腔鏡手術は手術に参加する全員が視野を共有できるため教育効果が高く、クリアな大画面で腹腔内の解剖についてしっかり学習することができます。病棟では臨床の最前線にいる後期研修医とともに、術前後の栄養管理を含めた最新の周術期管理を習得することができます。また、救急部の充実により、最近では消化管穿孔などの緊急疾患が増加しています。画像・理学所見からの診断、本人家族への説明、助手としての手術参加、術後集中治療といった流れの中で、救急のための外科の醍醐味を経験することもできるでしょう。そして、参加した手術では開創を担当させ、外来手術もできるだけ経験してもらいますので、縫合・結紮といった基本手技を身に付けることができます。
小児科	当院では1年目では研修しません。内科6カ月(24週)、救急科3カ月(12週)、外科3カ月(12週)のみとなります。
産婦人科	当院では1年目では研修しません。内科6カ月(24週)、救急科3カ月(12週)、外科3カ月(12週)のみとなります。
精神科	当院では1年目では研修しません。内科6カ月(24週)、救急科3カ月(12週)、外科3カ月(12週)のみとなります。
一般外来	1年次研修では、研修不可。

必修科目の研修ができない場合、選択可能な診療科

必修科目の研修可能です。

○研修アピール

初期研修1年目には必修科目である内科各診療科(呼吸器、循環器、消化器、腎臓・糖尿病内分泌、神経、血液)計6ヶ月、救急3ヶ月(内1ヶ月は麻酔科研修)、外科(腹部外科・脳神経外科)を3ヶ月間ローテートします。協力型コースでは、慶應大学指定の医療機関での研修となります。病棟研修や外来研修の他に救急医療や当直業務もあり、専攻医やフェローによる屋根瓦式の研修や上級医の直接の指導のもと、安全に配慮した高い臨床レベルを目指した研修が行われます。2年目を中心に充実した外来研修も行われます。内科系、外科系各科に優秀な人材が揃っており、ほぼあらゆる疾患に対応できると考えますが、専門性の高い疾患だけでなく、「common disease」を多く経験してもらうことにも力点を置いています。内科研修では毎朝内科全体での定例モーニングカンファレンスがあり、前日の当直入院の症例等を中心に電子カルテ、大画面でのプロジェクターを利用した検討が行われ、症例の共有や経験ができます。内科各診療科でも適宜病棟カンファレンスや勉強会が行われ、週1回の内科グランド・カンファレンス、定期開催のCPC、地元医師会との合同症例検討会等が行われます。他に、必要な医療安全教育等の研修が行われます。

尚、令和6年度採用は7名とフルマッチしております。全国より優秀な医師を集めております。31年度採用者における応募者は46名となり、令和2年度応募者は40名、令和3年度応募者は36名、令和5年度応募者は名69名でした。

○研修医からのメッセージ

私は医師3年目ですが、初期研修の2年間は当院で行いました。当院は東京都台東区の基幹病院として地域密着型医療を行っており、地域の方々の信頼も厚く、まずは当院へという方も多く聞きます。そのため、common diseaseを満遍なく経験出来るのはもちろんのこと、希少疾患を扱う事も珍しくありません。上級医の先生方はアカデミックかつ指導熱心、研修生活は忙しすぎず暇すぎないバランスの良い仕事量で、臨床経験とそれを題材とした座学の双方に時間を割く事が出来ました。研修プログラムは選択期間も長いので自由度が高く、既に進路を決めている人でも、様々な科を回ってから進路を決めたい人でも、自分に合ったプログラムを組む事が出来ます。是非一度見学にいらっしゃってください。

(元臨床研修医(慶應義塾大学2022年卒)/正木 貴之 医師(現在当院内科専攻医1年次))

研修実施責任者 吉田 英雄

※問い合わせ先

担当部署・担当者名: 人事部採用課 鶴田 宏之

住所: 東京都台東区東上野2-23-16

TEL: 03-3833-8389

E-mail: jinji.saiyo1@ei.juhp.com

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項

- ・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
- ・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

2025年度 公益財団法人ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院 (病床数 400) 【2年次】

受入人数	【2年次】1名													
常勤・非常勤	研修手当						勤務時間	休暇				当直 /月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与		時間外	休日		有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤		340,000		無	有(当院規定による)	有(当院規定による)	8:30~17:00		10	有(有休利用)	有	3回/月程度	無(本人名義で賃貸の場合、住宅手当半額補助:月額50,000円上限)	社会保険・厚生年金・雇用保険・労働保険等

○ 研修診療科(必修科目)について

科目	研修内容(手技・症例数・指導医数等)
地域研修(在宅を含む)	協力型コースにおいては、基本的には慶應大学指定の医療機関での研修となります。
一般外来	初期研修2年次において、外来研修を8週間以上行います。地域医療研修における4週間は平行研修として行うこととなりますが、さらに、2年次においては、小児科、ないし内科の何れかの科において4週間以上の外来研修を平行研修として行うものとします。
外科	1年次に一般消化器外科を2カ月、2年次には選択により、追加の研修が可能です。脳神経外科を1カ月間研修していただきます。 一般消化器外科では、常勤医5名で週に概ね10例程度の手術を行っており、頻度の高い大腸癌・胃癌、胆石症などの疾患に対してはほとんどの症例を腹腔鏡手術を取り入れています。腹腔鏡手術は手術に参加する全員が視野を共有できるため教育効果が高く、クリアな大画面で腹腔内の解剖についてしっかり学習することができます。病棟では臨床の最前線にいる後期研修医とともに、術前術後の栄養管理を含めた最新の周術期管理を習得することができます。また、救急部の充実により、最近は消化管穿孔などの緊急疾患が増加しています。画像・理学所見からの診断、本人家族への説明、助手としての手術参加、術後集中治療といった流れの中で、救急のための外科の醍醐味を経験することもできるでしょう。そして、参加した手術では閉創を担当させ、外来手術もできるだけ経験してもらいますので、縫合・結紮といった基本手技を身に付けることができます。
小児科	スタッフ2名体制であり、小児一般医療を学ぶことが可能です。小児神経についての研修もできます。慶應大学から各科専門非常勤医師の派遣もあります。医師会・近隣大学病院スタッフの応援により、台東区こどもクリニック(休日・夜間診療所)を開設しています。
産婦人科	スタッフ6名体制であり、慶應大学からの応援派遣もあります。慶應大学から専攻医の派遣もあります。多くの症例を経験することが可能です。分娩は年約200件程あります。地域の中核施設となっております。
精神科	協力病院である桜ヶ丘記念病院で研修を行います。同病院は慶應大学医学部関連施設であり、精神科専門研修基幹施設に認定されています。多数の専門医が所属しているため、充実した研修を受けることができます。
麻酔科	常勤指導医4名(7月に5名)、症例数約200/月 指導医のもとで以下の実践的周術期管理の習得を目指します。1. 各種気導確保法 2. 動脈ライン中心静脈ライン確保 3. 術中麻酔管理 4. 術前、術後管理 など。

○ 研修のアピール

<p>2年目に麻酔科(1年目にローテートしない場合)・小児科・産婦人科・精神科をローテートすることになります。また、2年目に地域医療を必修として1ヶ月間ローテートします。残り期間は専攻予定の科を中心に研修することを原則としますが、個々の研修医の希望に応じたプログラムを提供できるように配慮しています。外来研修も開始の予定です。</p> <p>初期研修では病棟・外来研修の他に救急医療や当直業務もあり、専攻医による屋根瓦式の研修や上級医の直接指導による研修が行われます。安全に配慮した高い臨床レベルを目指した研修が行われます。内科系、外科系各科に優秀な人材が揃っており、ほぼあらゆる疾患に対応できると考えますが、専門性の高い疾患だけでなく、「common disease」を多く経験してもらうことにも力点を置いています。</p> <p>内科研修では毎朝内科全体での定例モーニングカンファレンスがあり、前日の当直入院の症例等を中心に電子カルテ、大画面でのプロジェクターを利用した検討が行われ、症例の共有や経験ができます。内科各診療科でも適宜病棟カンファレンスや勉強会が行われ、週1回の内科グランド・カンファレンス、定期開催のCPC、地元医師会との合同症例検討会等が行われます。他に、必要な医療安全教育等の研修が行われます。</p>
---

○ 選択科目について(選択できる診療科)

整形外科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科
緩和ケア内科(緩和医療科)	皮膚科	呼吸器外科		
備考				
上記の各診療科を選択することができます。また緩和ケア内科(PCU)は4名の常勤スタッフがおり、16床の病床を有しています。(区中央部医療圏全体で計40床)				

※地域研修の施設は、記載されている協力型病院の施設に限られます。

研修実施責任者 吉田 英雄

※問い合わせ先

担当部署・担当者名: 人事部採用課 鶴田 宏之

住所: 東京都台東区東上野2-23-16

TEL: 03-3833-8389

E-mail: jinji.saiyo1@ei.juhp.com